

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室 えがお			
○保護者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年 3月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	8人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 19日 (話し合い 2025年 3月 18日)			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置の満足度、利用を楽しみにしている状況などは定員5人に対して、職員は1対1配置ができる体制を取っていることで児童の居場所に慣れているようにおおい評価できる。	職員配置が充実していることで、児童の特性や課題に合わせての対応が可能であるため、個別での対応、集団での活動を組み込んだスケジュールを作っている。 職員がそばにすることでSOS等発信ができるように児童からの発信を促している。 児童からの発信に対応ができる個別の対応や個々の課題に対応ができる。	職員が多いことで依存心にならないように、適度な距離を置くことに留意していく。 個々の児童が自分で、取り組みたい活動を考える、選択するなどして活動をしていけるように、自主性を育てていく。
2	全体を通して、「はい」という評価が多いことは職員にとってもモチベーションが上がり、支援の向上への意欲につながっていく。	日頃から保護者からの声は、職員間で共有するように心がけている。 児童の姿、情緒面、体調の変化やケガなどは丁寧に保護者との連絡をとるようにしている。	支援力向上の研修など、職員が学べる内容、時間環境を工夫していく。 職員間で学びを共有できたり、実際に支援でうまくいったことなどを共有、評価につながっていくとより支援力向上に意欲が持てるのではないか？ 支援が正しかったかどうか不安になることもあるという意見もあった。
3	保護者とのコミュニケーション等取りやすい環境になっている。 関係機関とのコミュニケーションも順調である。	職員の姿勢、挨拶や表情にも一人一人が気を付けるようにしている。 活動の写真をSNSで送ったりすることで、児童の表情などより活動を理解していただけるようにさせていただいている。	放課後の保護者は就労している方が多いが、時間を見つけて保護者、関係機関の方々と実際の姿を共有していけるように事業所での参観していただく機会を提案していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	伝わっていることと、伝わっていないことが有る。子どもに対しての内容は伝わっているが、事業所としての内容等は伝わっていないように感じている。	SNSでは児童の様子など、児童関連の内容を送っている ので大丈夫となっていないか？共有という面では相手側からの発信は受けられてない。一方通行になっていないか？	懇談時、通信やSNSで事業内容や取り組みのスケジュールを保護者にも伝えられるように。マニュアル等の共有もできないか？アプリの使用を考えていけないか？ 個人情報の問題もあるので、流出などの配慮も必要である。
2	地域交流の弱さ：地域での活動、地域の他の子どもたちとの交流する機会がない。	地域へ参加、他の子どもとの交流などの機会を積極的にとれていない。子ども食堂に参加は出来たがそこでの他児とのかわる時間が持ててない。 相手側の同意をとる、職員サイドが難しと決めていないか？必要性等をどこまで共有できているか？	児童の友達や事業所の地域の子どもたちに遊びに来てもらう企画を子どもたちといっしょにできないか？ 事業所内のイベント夏祭り等に近所の子ども立ちの参加を呼びかける。 交流が苦手な子どももいるので、なぜ地域が大切なのか等、子どもが理解をできるように話し合いを持つ。
3	職員間での研修、事柄の共有が時間環境でむづかしい。	時間をうまく使う工夫が出来ていない。 打合せなどの内容を記録で読むことはできるが、考えを返すことができていないように感じる。	日にちを決めて会議の時間を共有する。 1対1つかなくても取り組める時、午前、午後の先生で支援職員を入れ替わって話し合いをする時間を計画的に持つ。